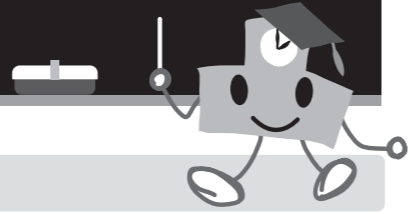


小学校の事例 北区 白楊小学校

エコ・リサイクル委員会で資源物を回収。ポスター等で啓発活動も展開。

地域をまきごみ資源物回収に取り組む。体験と総合的な学習の時間で意義を学び、知識を深めることでより実感が得る学習に。



内容 区役所などにもボックスを設置して回収

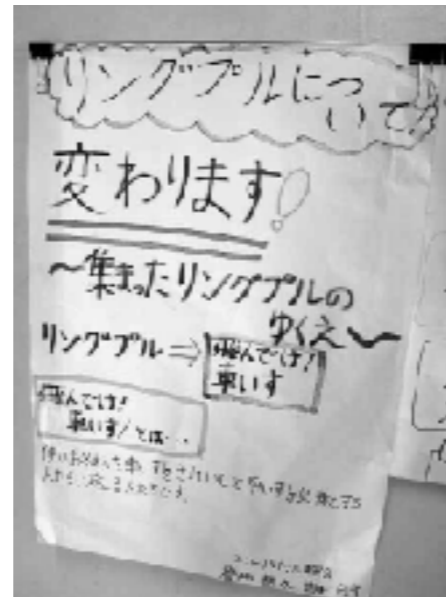
本校では、10年ほど前、4年生の総合的な学習の時間に取組んだ「エコ・リサイクルの活動」でのリングプル・ペットボトルキャップの回収が、その後、エコ・リサイクル委員会の活動として発展し、定着した。

エコ・リサイクル委員会は5～6年生16名で活動しており、リングプルとペットボトルキャップを毎年、回収している。リングプルに関しては、委員会の担当の教諭がお願いをして、区役所や近くのスーパーに、本校の回収ボックスを設置するなど、地域の方の協力も得ながら集めている。

委員会の子供たちは隔週ごとに年間19回、全校のリングプル・ペットボトルキャップの回収を知らせて、関心が薄れないように工夫している。また、エコやリサイクルをPRし、全校に周知するためのポスターの掲示や昼の校内放送などでの呼びかけを行っている。これにより、委員会で活動している子供たちだけではなく、全校的にエコ・リサイクルの意識が高まっている。



一般ごみと資源化ごみに分別



収集後のリングプルについて

今後 総合的な学習の時間などで 活動の意義を改めて認識

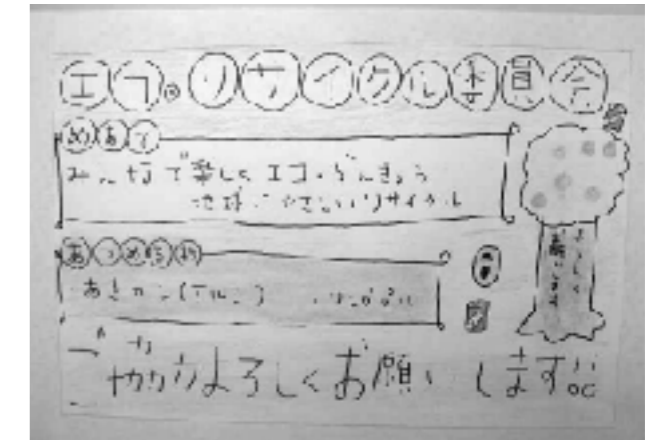
ペットボトルキャップは学校近くのスーパーに、リングプルは地域の介護老人福祉施設へ渡している。収集量から頃合いを見て、だいたい2～3ヵ月に1回、担当教諭が届けている。エコ・リサイクル委員会の熱心な活動により、ペットボトルキャップは約60ℓの袋3つ分が、リングプルは約50kgの袋3つ分が集まっている。

しかし、集まる量が多いため、保管場所の問題などの悩みを抱えている。



回収された資源物

ポスター掲示や呼びかけで、リングプルが車いすに、ペットボトルキャップがワクチンになることも知らせているが、「ただ集めている」ことにはならないように、目的の再確認、学年の発達段階に合わせて手厚く説明するべきだと考えている。特に1年生には難しいことは分からないので、「何のためにやるのか」について簡単な言葉で説明するなど、工夫も必要である。子供たちは、総合的な学習の時間などで環境に関わる学習をする際に、回収活動の意義を改めて知り、環境活動が自分たちの生活と結びついていることを実感している。



エコを呼びかけるポスター

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

CMやキャンペーンなどで環境問題への子どもの意識を高めることはできますが、そこからさらに一歩踏み込み、環境問題をきっかけにして、エネルギーの枯渇、食料難、人口増加といった地球上の様々な問題を冷静に考えていける子どもに育てたいところです。